

神戸学院大学地域研究センター 明石ハウス通信

■発行元 神戸学院大学
地域研究センター明石ハウス
■住所 〒673-0871
明石市大蔵八幡町5-23
■電話 078-995-5414
078-974-4232(事務局)
■mail akashi-h@human.
kobegakuin.ac.jp

私たちが
上演します!



創作演劇プロジェクト アタシノアカシ

7月22日(金)
17:15開場 17:30開演

ご観劇の際は、検温・マスクの着用等にご協力ください

創作演劇シリーズ「アタシノアカシ」は、神戸学院大学
人文学部中山ゼミが取り組んでいるプロジェクトです。
「明石」をテーマに、学生たちが地域の歴史・文化に取
材した戯曲を創作し上演します。今年は3年ぶりに観
客をお招きしてリーディング公演を行います。

*7月20日までに、要申し込み(先着20名)。中山文宛
fumi@human.kobegakuin.ac.jp

*新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、
上演を中止する場合があります。



昨年度の公演風景



会場：オーバルホール (入場無料)

有瀬キャンパス 15号館 3階
神姫バス「神戸学院大学」下車 徒歩1分
(バスターミナル向かいの建物です)
※お車の場合は、近隣のコインパーキングをご利用ください

お問い合わせ 神戸学院大学地域研究センター
☎ 078-974-4232(火・水・金 10:00~17:00)
frb@human.kobegakuin.ac.jp

シンポジウム 海のまほろば

明石で始める 風土と暮らしの人文学

8月7日(日) 13:30開場 14:00開始

アスパア明石7F ウィズあかし704室

申込不要 入場無料

※会場内では検温・マスク着用にご協力ください
体調が悪いときは参加を見合わせてください
来場者が定員を超える場合は入場を
お断りすることがあります

写真/矢嶋巖

その土地の風土や歴史から生まれてきた生活のかたち ——
海辺の「暮らし」を題材に地域や人間の本質を考えてみましょう
神戸学院大学の教員がそれぞれの専門分野から
明石を、人間の営みを、人文学を存分に語り合います

—— Program ——

- 14:00 基調講演①
移住と家族からみる地域 インドネシア沿岸の事例より
神戸学院大学人文学部講師 鈴木 遥(地域研究)
- 基調講演②
明石の魚と百人一首 藤江でマグロが釣れた?!
神戸学院大学人文学部准教授 中村 健史(国文学)
- 基調講演③
旧明石郡の前方後円墳の保存と活用 三者三様の五色塚古墳・白水瓢塚古墳・王塚古墳
神戸学院大学人文学部教授 用田 政晴(考古学・博物館学)
- 15:30 シンポジウム
明石で考える 明石から考える
神戸学院大学人文学部 地域研究センター教員
(終了予定 16:30)

明石ハウス写真展 稲爪神社 秋の大祭の物語



終戦から間もない頃の、稲爪神社・秋の大祭の様子を撮影した貴重な写真を、七月より明石ハウスにて展示いたします。写真にうつる風景や人物、祭礼等について、情報を求めています。写真が呼び起こす思い出について、教えていただけますと幸いです。

場所 明石市大蔵八幡町5-23 明石ハウス
(大塩邸・裏面の地図をご参照ください)

日時 毎週火曜日・金曜日 9:00-16:00

お問い合わせ ☎078-995-5414
akashi-h@human.kobegakuin.ac.jp

教員紹介 早木 仁成 教授

(人類学・霊長類学)

Q：研究について教えてください

霊長類学は、人類学の一分野です。そして、人類学は「人類とは何者なのか？」を探る学問です。この学問の研究には、骨や石器などを対象とする方法と、現在生きている人間やサルを対象とする方法があります。私の研究は、後者です。以前は、アフリカ・タンザニアでチンパンジーの社会行動を観察し、その成果をもとに研究を行っていました。霊長類の行動から「人類の祖先は何をしていたか？」を推測するというものです。

1990年に神戸学院大に着任して以降は、学生とともに沖縄を訪れ、そこに暮らす人々の話を聞くフィールドワークを行っていました。他にも、兵庫県の船岡山にて、ニホンザルの観察を行っていました。



アフリカ・タンザニアにて



船越山フィールドワークの様子

Q：明石との関係について教えてください

明石でのフィールドワークを始めてから、20年ほどになります。最初のきっかけは、学生の卒業論文でした。稲爪神社の獅子舞の保存会に参加した学生がいて、そこから大蔵地域との関わりが深まりました。コロナ禍の前までは、ゼミをあげて秋の大祭に参加し、神輿をかついでいました。

明石には歴史があり、また海や畑、水田と、多様な環境があります。学生と共にフィールドワークをする上で、大変興味深いところです。

Youtube
連動企画

くずし字解読講座

第2回

▼字形の変化

同じ文字であっても、字形は書き手次第で変化します。

手書き文字だけではありません。活字でさえも同様です。例えば「き」には、二画目と三画目を続ける形と、離して書く形があります。この差異は通常、どちらも正しいとして扱われます。

統一された基準のある現在ですらそうなのですから、江戸時代以前の仮名文字に甚だしい字形の違いが見られるのも、また致し方ない状況と言えるでしょう。しかし、文字には、どのような字形であっても、最低限その条件を満たす「基本となる点画」が存在しています。これに当てはめると、くずし字は判別しやすくなります。



右の三つのくずし字は、いずれも「越」を字母とする変体仮名です。「を」と読みます。くずし方がそれぞれ異なりますが、三つの字形すべてに共通する点画

(下の図)があります。

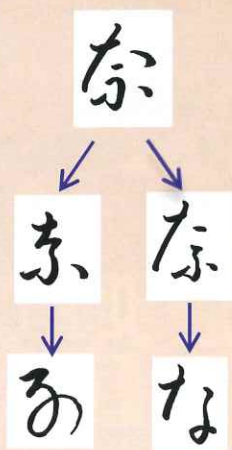
▼複数の崩し方

また、仮名文字の元となる草書の崩し方は、1文字につき1通りとは限りません。現在のひらがなの「な」の字母は「奈」です。しかし、同じ「奈」を字母としながら、「な」とは異なる形をした仮名文字があります。

「奈」の草書には、二種類の字形があります。そのため、全く別の字に見える「奈(な)」があるのです。



〔源氏物語湖月抄〕明石巻「なを」



後者の「な(奈)」は「る」に似た形をしています。ですが、よく見ると「一番上の横線と、その下の斜めの線の間隔が、『る』のそれより狭い」という特徴があります。このように、似た字を手がかりとして覚えるという方法も、くずし字の解読に役立ちます。

明石ハウス NEWS

神戸学院大学 明石ハウス

検索

地域研究センターのWebページ リニューアルしました



ホームページを2022年4月にリニューアルしました。活発な情報発信を目指してまいります。URLが変わりましたので、ブックマーク等をご登録の方は、お手数ですが変更をお願いいたします。<https://card-kobegakuin.jp/>

『采邑私記 翻刻と訓読』が 刊行されました

中村健史准教授(国文学)と西川哲矢氏(日本近世史)による『采邑私記(さいゆうしき)』の翻刻と訓読が、デザインエッグ社より刊行されました。

同書は江戸時代、元禄年間(1688~1704)に明石藩士によって編纂された地誌です。江戸時代前期の明石郡の構成のほか、寺社や文化の様子など、事細かな記述があります。写本として伝わり、現在、東京国立博物館に所蔵されています。

江戸時代の明石を知るための重要な史料です。ただし、全文が漢文であるため、本文の翻刻に訓読を付すことで、読者の便宜を図りました。

なお、この刊行物はJSPS科研費19K12491の成果の一部です。

采邑私記

翻刻と訓読

西川 哲矢
中村 健史

活動・研究報告書を 刊行しました

2021年度の地域研究センターの活動・研究報告書を、2月に刊行しました。

以下、11本の活動報告・研究報告を収録しています。ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

▽人文学部における演劇教育の試み―「アタシノアカシ」を通して 中山 文・小原 延之

▽2021年度『アタシノアカシ』活動報告 中山 文・中山ゼミ3回生

▽明石のうどん出汁の地域性 鹿島 基彦・高田 真・福原 寿大・井上 清太

▽コロナ流行下における稲爪神社祭祀観察報告 三田 牧

▽写真映像を活用した大蔵地域との連携 矢嶋 巖

▽大蔵地区をテーマにしたゼミ活動の実践(2018~2021年度) 福島あずさ

▽大蔵谷宿に関するフィールドワーク参加報告 福島あずさ

▽大蔵谷における南北方向の地域形成:交通、生業、土地所有の着眼点の整理 鈴木 遥

▽朝霧川流域から地域を考える 鈴木 遥

▽野中清水浅酌―附梁田蛻巖野中清水酒詩序小箋― 中村 健史

▽『播州名所巡覧図絵』長田条訳注 中村 健史

Youtube「オンライン くずし字講座」配信中

「オンラインくずし字講座」をYoutube「明石ハウスチャンネル」で順次公開しています。

江戸時代に出版された『源氏物語』の注釈書『湖月抄(こげつしょう)』の「明石の巻」を使ってくずし字を学ぶという企画です。ホームページにも、こぼれ話を掲載しています。



明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。山陽電鉄 大蔵谷駅 徒歩5分

